



横浜市再利用材  
Recycled from Yokohama

コンセプトブック

# おもいでの材を、これからも。

「REYO 横浜市再利用材プロジェクト」は、横浜市にある公共建築物の古材を新たな価値へとアップサイクルする取り組みです。

全国最大の基礎自治体である横浜市には、学校をはじめ多くの公共建築物があります。こうした建物はメンテナンスをしながら大切に使われ続け、長い年月を私たちと共に過ごします。しかし、これらの建物は一定の期間を越えると改修や建替工事が必要となり、毎年多くの建築廃材が発生しています。

耐久性や強度が求められる公共建築物の木材は、物によっては高い市場価値があるにもかかわらず、そのまま再利用されることは稀です。例えば床材であれば廃材の85%は木質チップ化され、燃料やパルプ原料として再利用されているのが現状です。

「REYO 横浜市再利用材プロジェクト」は、こうした横浜市の再利用材の価値や思い出を、なるべくそのままの姿で未来につなぎます。

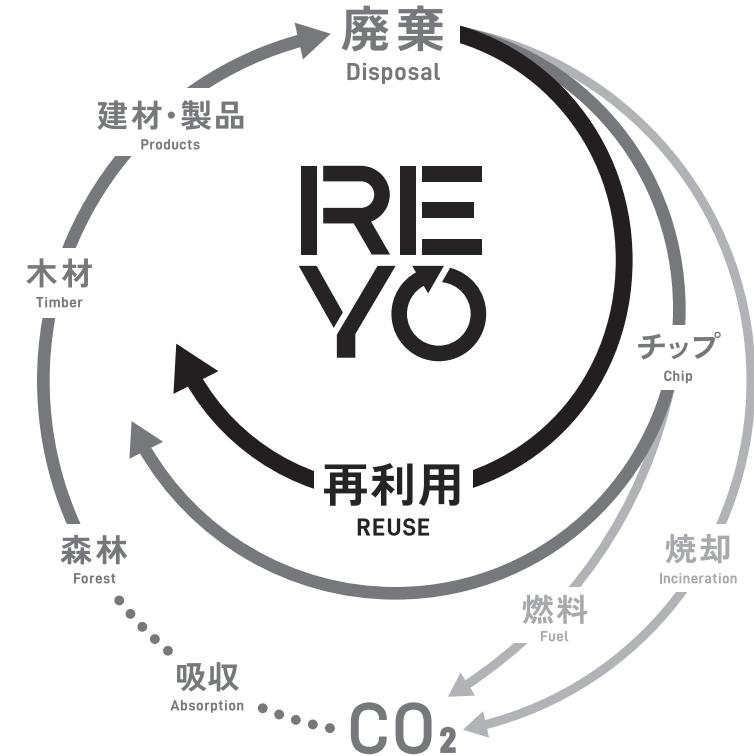
# 横浜市再利用材について

「REYO」では現在、木材使用量が多い学校体育館の床材アップサイクルに取り組んでいます。

横浜市の市立学校は500を超え、小学校の数は全国1位を誇ります。これらの体育館で使用されている床材は研磨によって約40年使用できますが、床としての役目を終えて張替えを余儀なくされたフローリング古材が、横浜市だけでも年間体育館10個分、5000m<sup>3</sup>も生じます。

現在は大半が木質チップとなり、燃料等として再利用されていますが、価値のあるサクラやカエデなどの無垢の床材は、本来さまざまな可能性に満ちています。それぞれの古材には、体育館の線や傷など、時間の蓄積によって醸される独特の魅力があり多くの学校関係者たちの思い出が詰まった材もあります。

ぜひ、この材料をみなさんも使いませんか？



廃材を焼却処分せず、可能な限りそのままの形で再利用することで  
CO<sub>2</sub>を発生させず、炭素の固定期間を伸ばすことができます。

# 解体によって生じる材について

体育館解体時に取り出せる再利用可能な床材は大きく2つに分けられます。



手間とコストはかかりますが、広い用途で使えます。釘があるので再加工時には注意が必要です。

そのまま使用できれば手間もコストも抑えられますが、下地の板がついているため、重く分厚い材になります。

※床材の使用状況や施工状況などによって、解体時に得られる材にはバラツキがあります。

# 活用例紹介

「REYO 横浜市再利用材プロジェクト」では、市内外の民間事業者と連携しながら、公共建築物から生じる廃材の循環を促し、サーキュラーエコノミーを推進しています。



1／良品計画「体育館の床からできたベンチ」  
2／理科室の椅子

-施設 横浜市立永田中学校

Facility Nagata Junior High School

-材歴 体育館床材 1975-2023

Origin Gymnasium Flooring

-材質 サクラ材

Material Cherry Wood



3／時計 4／ミニプランター  
5／カレンダー 6／名刺ケース

-施設 横浜市立新吉田第二小学校

Facility Shinjyoshidaiini Elementary School

-材歴 体育館床材 1978-2023

Origin Gymnasium Flooring

-材質 カエデ材

Material Maple Wood



REYOにぜひご参加ください。

「REYO横浜市再利用材プロジェクト」では、体育館の床材を皮切りに、  
公共建築物から生じる廃材に目を向け、リサイクルのチャンスを創出していくます。

横浜市 建築局 公共建築部 学校整備課

〒231-0005 横浜市中区本町6-50-10-24階

TEL : 045-671-2969

MAIL : [kc-reyo@city.yokohama.lg.jp](mailto:kc-reyo@city.yokohama.lg.jp)

RE  
YO



CONCEPT

+

事業: 横浜市 建築局 公共建築部 学校整備課 プランディング: NOSIGNER